

ミステリ読書案内

2023. 6. 11 発行元

第486号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

渡辺裕之「陽炎の闇」

5月に中央公論新社から渡辺裕之の『オッドアイ・シリーズ』の最新作『陽炎の闇』が出た。シリーズ10巻目に当たる。ここ数年の国際情勢を踏まえ、日本・アメリカの対応を具体的に描いたストーリー展開。

オッドアイ・シリーズ

オッドアイの捜査官・朝倉俊暉を主人公にしたこのシリーズも十冊目になった。最初の頃は朝倉の壮絶な単独活動だったが、シリーズが進むにつれて協力体制がしっかり組まれるようになり、組織としての対処ができるようになってきている。本書でも警察と自衛隊の両方にまたがってハイブリットに動くことのできる「特別強行捜査室」のメンバーが活躍する。

背景になっているのはほぼ現在の国際情勢。地球温暖化の問題から二酸化炭素排出削減の世界的な動きが始まり、そこへ新型コロナ・ウイルスによるパンデミックが起これ…それらの遠因があってロシアによるウクライナ侵攻になってしまった。経済的な意味も含めて国家間の対立を押し進めるリーダーたちの存在も大きかったと思う。難しい情勢の連続が続いている。

ロシア・中国のスパイか？

朝倉は横須賀での国際観艦式の最中にアメリカのNCIS(海軍犯

罪捜査班)のハインズから呼び出しを受けて米空母ロナルド・レーガンに乗り込むことに…。米軍の情報盗まれている兆候があり、ロシアのスパイを追って空母に乗り組んでいた捜査官が殺されたという。観艦式取材していた日本側のマスコミの中に諜報員が紛れ込んでいたかも知れず、朝倉にその部分の調査を依頼してきたのだ。

朝倉は国松、中村などのメンバーを動かして国内の調査を指示。やがて中国人諜報員らしき人物がいるらしいこと突き止めていく。

やがて台湾・韓国へ…

後半になると藤堂や影山などの名前が登場して他シリーズと少しだけクロスオーバーする。藤堂の知人ということで一緒に活動する海外組織の信頼を得たり、影山に電話連絡することで中国諜報員のヒントをもらったりする。

朝倉は空母ロナルド・レーガンを離れた後、消えた犯人を追って台湾へ。海峡をはさんで中国との間の緊迫感が伝わってくる。その後韓国へ。韓国も中国、ロシア、北朝鮮との間

渡辺裕之「オッドアイ」シリーズ

1. 叛逆捜査
 2. 偽証
 3. 斬死の系譜
 4. 死体島
 5. 砂塵の掟
 6. 殺戮の罫
 7. 死の陰謀
 8. 血の代償
 9. 紅の墓標
 10. 陽炎の闇
- 『オッドアイ』シリーズは単行本になった後、中公文庫に収められている。

でスパイが交錯する場所。ここでようやく朝倉は犯人を追い詰めることができた。

今回はオッドアイ・シリーズの中ではページ数が少ない。より一層一気に読みになる流れになる。

ウクライナ情勢はどうなるか

現実社会ではウクライナ情勢がどうなるのかが世界の今後を左右する大きなポイントである。本書は東アジアを舞台にしているが、渡辺裕之が描く諸作品の今後の行方にも大いに響いてくるだろう。

私がこの原稿を書いているのは5月中旬。広島でのG7サミット前である。サミットの話し合いで何か急激に変化することはないだろうと思うが、世界の知恵を集めて紛争が直ちに治まる方向に進んでいってもらえるのなら…。スーダン情勢も一時期取り上げられたのだが、その後の展開は…。

小路幸也『ペニイ・レイン』

4月に集英社から出た本。『東京バンドワゴン』シリーズの第18弾となる。書下ろしで、四つの季節の話が収められている。東京の下町で古書店兼カフェを開いている東京バンドワゴン。お馴染みのメンバーが次の一年を過ごしていく。変わらないようでいて、日々子どもたちは成長し、町の様子も少しずつ変化していく。ミステリとしての「謎」の部分はどんどん薄れていくようだ。

第一話の『カフェの向こうで紅茶も出番』は日英テレビによる下町紹介の話から。ロックの我南人と俳優の佳奈さんが案内役に立つという趣向。バンドワゴンから始まって付近のお店などを順の巡る。そんな中で以前近くにあった「サザンクロス」という名の純喫茶の店の話題も出てくる。後日、古書店の店の前に発泡スチロール箱に入った本とLPレコードが届けられる。これが謎。以前、古書店で売ったものようだ。果たして誰が、どんな目的で…。第二話以降は、引越しの話を中心になっていく。イギリスに行っていた藍子とマードックさんが戻ってくることになり、また増谷家と会沢家の家がすぐ隣に完成して、大移動が行われる展開である。家族総出で作業を…。そんな中猫のベンジャミンが亡くなる出来事なども挟まって…。